

あつ、特に今回は少し脚立も使う。前回触れなかった脚立のことも少し、書いておくれね。

脚立は3本脚と4本脚、両方ともそんなに高くない。3本脚は1.5メートル、折り畳みの4本脚を伸ばして2本脚にして伸ばして3.6メートルくらいで十分。

とにかく天板には登らない

木に立てかけて使う時は幹や太い枝と脚立の横バーを紐で固定してから作業すること。

図にも書いたように切った枝で脚立直撃、はずみで落下して肋骨折ったり、脚立の段に足が挟まったまま転倒して骨折するとか結構重いケガする事故多いから。

自分の畑や庭の伐採中の事故は自己責任(シャレじゃないシャレ)。後の治療だってそれだけ大変なんだからくれぐれも気をつけて下さいね。

さあ、切るぞ

さつき書いた順序は伐採してなくす木を決める優先順序。

伐採する木と周囲の残す木

の枝が複雑に絡んでるなら、先に鋸や鋏入れるのは残す方の木。

残す木が折れたり割けたり傷むのを防ぐため。

高枝鋸使おうとしても枝が多すぎたり枝が揺れて切りづらいところは脚立使って小切りしながら、残す木の方の高さを思い切って下げる。

できるだけ枝の絡み合いをなくしておいてから、なくす木を切り下げる。

脚立作業は効率悪く

脚立作業のコツはいきなり大枝を枝元、幹からの枝分かれ部分で切らないこと。一方の手で体のバランスとりながら作業してる時に鋸に力かけた重い枝が切れるとバランス崩しやすいから枝とともに自分も落下なんてことならないようにね。

それから、「届きそうだからあの枝もついでに切っちゃまおう」ってついで切りしたところだけど、無理な姿勢での作業は絶対禁物。めんどうでも、一旦脚立から下りて脚立の位置を合わせなおして少しづつ。

それから、脚立での作業は

最少限にする。残す木となくす木の絡みも少なくなれば後は高枝鋸使って地上から切るうね。

伐採木の再生防止

樹木って生命力強いから、伐採しても切り口からすぐに元気な芽をいっぱい出して再生、数年で戻っちゃう。そうならないように枯らし方も書いておくから覚えておいて。

わざと株元20〜30センチ残して伐採、肥料袋二重に地面までスッポリ被せて紐でくくっちゃうとほとんど芽は出ない。

もし、出て来てもすぐになら剪定鋏で切れるでしょ。

アツ、2回続けて伐採してなくす木の話したけど、残す方の木の切り方は去年曲集落で実習やって、本紙(去年の12回)でも書いたから見ておいてね。



▲アカメガシワ



▶ハナミズキ

次回は最終回。
持続可能な獣害対策と
楽しい未来だよ。



枝がバネになって
三脚を直撃



枝が振り子になって
脚立を直撃

講師紹介 井上 雅央氏

1949年、奈良県出身。
愛媛大学大学院農学研究科修士課程修了、京都大学博士(農学)。
元農研機構 近畿中国四国農業研究センター鳥獣害研究チーム長。
退職後、同センター専門員。宮崎県、熊本県、広島県、静岡県などでアドバイザーとして継続的に活動。
著書に、『それならできる獣害対策』『山の畑をサルから守る』『山と田畑をシカから守る』『60歳からの防除作業便利帳』『ハダシ』『女性がいればずんずん進む獣害対策』(いずれも農文協)など多数。

